

SII ●

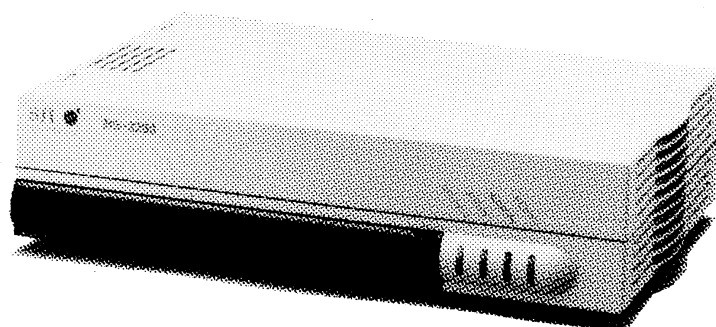
# 設置手順書

---

コミュニケーションサーバ

# NS-2232

(TYPE R)



エスアイアイ・ネットワーク・システムズ株式会社

U00024362800 (39015-1414-00)	1999年 9月
U00024362801	2001年 4月
U00024362802	2004年 9月
U00024362803	2005年10月
U00024362804	2006年 2月

©エスアイアイ・ネットワーク・システムズ株式会社 1999, 2001, 2004, 2005, 2006

無断転写を禁じます。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

SII ● はセイコーインスツル株式会社の登録商標です。

イーサネットは米国ゼロック社の登録商標です。

本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害  
およびその回復に要する費用に対し、当社は一切責任を負いません。

本装置を廃棄する時は、地方自治体の条例に従って処理するようお願い致します。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# はじめに

---

このたびはNS-2232コミュニケーションサーバ (TYPE R) (以後、本装置と呼びます) をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書では、本装置の開梱から、据え付け、各種ケーブルの接続、起動までを説明しています。

本装置を実際に使用するには、システムソフトウェアのセットアップが必要です。システムソフトウェアのセットアップ方法や使い方については、別売りの「NS-2232コミュニケーションサーバ取扱説明書」を参照してください。



まず、次の「安全上のご注意」および「取り扱い上のご注意」をお読みになってから本装置の設置を始めてください。

# 安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、本装置を安全に正しくお使いください。

本書では、本装置を安全に正しくお使いいただくため、または機器の損傷を防ぐため、次の記号を使って注意事項を喚起しています。

これらの記号表示の意味は次のとおりです。内容をよく理解して、本書をお読みください。

 <b>警告</b>	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例



△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

左の表示例は「警告または注意事項」があることを表しています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。

左の表示例は「分解禁止」を表しています。



●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

左の表示例は「電源プラグをコンセントから抜く」ことを表しています。

## 警告



本装置を分解したり、改造したりしないでください。  
発熱・発火・感電や故障の原因になります。



湿気の異常に多い場所や水などの液体のかかる場所では、絶対に使用しないでください。  
火災や感電、故障の原因になります。



本装置の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼさないでください。  
火災や感電、故障の原因になります。



濡れた手で、電源ケーブルなどを接続したり、はずしたりしないでください。  
感電の原因になります。



本装置の吸気口や排気口をふさがないでください。  
発熱などにより、火災や感電、故障の原因になります。



次のような場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
異常状態のまま使用すると、事故や火災の原因になります。

お手入れするときや異常時の処置を行うとき  
異臭がする、煙が出た、または異常音が発生したとき  
本装置の内部やすき間に、金属片や水などの液体が入ったとき  
本装置を落としたり、装置の外面が破損したとき

## 注意



次のようなことは、絶対に行わないでください。  
守らないと、火災や感電、事故または故障の原因になります。

本装置の上に物を置かないでください。  
本装置をたたいたりなどして、衝撃を与えないでください。  
不安定な場所には置かないでください。  
ケーブルの上に物を載せたり、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないでください。



次のような場所には設置しないでください。  
故障の原因になります。

直射日光の当たる場所  
温度、湿度の変化の激しい場所  
ほこりの多い場所  
振動のある場所  
冷暖房機器の近く  
通風口からの風が当たる場所



次のことは、必ずお守りください。  
守らないと、火災や感電、事故または故障の原因になります。

必ず指定の電源電圧（AC100V）で使用してください。  
ケーブルを接続するときは、本装置および接続機器の電源を切ってから行ってください。



電源ケーブルは、必ず接地してください。  
火災や感電の原因になります。

このほか、各項で示す警告 / 注意事項についてもお守りください。

# 取り扱い上のご注意

吸気口は、約2ヶ月に1回は掃除機などで清掃してください。

RESETスイッチを押すときはボールペンの先など、先の細いもので押してください。ただし、シャープペンシルは使用しないでください。シャープペンシルの芯が折れて中に入ると、故障の原因となります。

本装置の外装が汚れたときは、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸し、よくしぼってから拭き取り、さらに乾いた布で拭いてください。

本装置の電源をOFFにした後、再度電源をONにする場合には、10秒以上経過してから電源をONにしてください。  
あまりはやく電源をONにすると、正常に本装置がリセットされない場合があります。

メモリカードを抜くときには、イジェクトボタンを押して抜いてください。

次のようなことは、絶対に行わないでください。  
本装置やメモリカードの故障またはメモリカードの内容が破壊される原因になります。

- ・メモリカードアクセスランプが点灯しているときに、メモリカードを抜き差ししたり、電源を切ったり、RESETスイッチを押したりしないでください。
- ・メモリカードのコネクタ部に、手や金属で直接触れないでください。
- ・メモリカードを落としたり、曲げたり、分解しないでください。
- ・メモリカードは変形、反りなどによって品質低下を招く恐れがありますので、直射日光の当たるところ、暖房器具の近くなどの高温になる場所、また湿気やホコリの多い場所には置かないでください。

# 目次

はじめに	i
安全上のご注意	ii
取り扱い上のご注意	v
<b>1章 設置手順概要</b>	<b>1-1</b>
1.1 設置手順概要	1-2
1.2 装置構成品	1-3
1.3 本体各部の名称と機能	1-4
<b>2章 据え付け</b>	<b>2-1</b>
2.1 設置環境の確認	2-2
2.1.1 設置空間	2-2
2.1.2 環境条件	2-4
2.1.3 電源条件	2-4
2.2 据え付け	2-5
<b>3章 インタフェースケーブルの接続</b>	<b>3-1</b>
3.1 インタフェースケーブルの接続の注意	3-2
3.2 CONSOLEポートへの接続	3-3
3.2.1 DTE仕様の装置との接続	3-4
3.2.2 DCE仕様の装置との接続	3-6



3.3	RS-232Cポートへの接続	3-8
3.3.1	DTE仕様の装置との接続	3-8
3.3.2	DCE仕様の装置との接続	3-12
3.4	10BASE-Tポートへの接続	3-14

## 4章 起動 / 確認 / 停止 4-1

---

4.1	電源ケーブルの接続	4-2
4.2	起 動	4-3
4.3	確 認	4-4
4.4	停 止	4-5

## 5章 保 守 5-1

---

5.1	日常の保守	5-2
5.1.1	吸気口の清掃	5-2
5.1.2	本体の外装の清掃	5-2

## 付 録 付録-1

---

A	装置の仕様	付録-2
B	インタフェース仕様	付録-4



---

図1-1	装置構成	1-3
図1-2	本体の各部の名称（前面）	1-4
図1-3	本体の各部の名称（背面）	1-5
図2-1	設置空間（横置き時）	2-2
図2-2	設置空間（縦置き時）	2-3
図2-3	ゴム足の取り付け方	2-5
図2-4	スタンドの取り付け方	2-6
図3-1	CONSOLEポートとDTE仕様の装置との接続	3-4
図3-2	9ピン-9ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様1)	3-5
図3-3	9ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様2)	3-5
図3-4	CONSOLEポートとDCE仕様の装置との接続	3-6
図3-5	9ピン-9ピンモデムケーブル結線図(仕様3)	3-7
図3-6	9ピン-25ピンモデムケーブル結線図(仕様4)	3-7
図3-7	RS-232CポートとDTE仕様の装置との接続	3-8
図3-8	25ピン-9ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様2)	3-9
図3-9	25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様5)	3-9
図3-10	25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様6)	3-10
図3-11	25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様7)	3-10
図3-12	RS-232CポートのDCE仕様の装置との接続	3-12
図3-13	25ピン-9ピンモデムケーブル結線図(仕様4)	3-13
図3-14	25ピン-25ピンモデムケーブル結線図(仕様8)	3-13
図3-15	10BASE-TポートとHUBとの接続	3-14
図4-1	電源ケーブルの接続	4-2
図4-2	電源スイッチON	4-3
図4-3	電源スイッチOFF	4-5
図A-1	本体の外形寸法	付録-3

## 表

---

表1-1	設置手順概要	1-2
表3-1	ヌルモデムケーブルの種類	3-9
表4-1	異常時の対処方法	4-4
表A-1	本装置の仕様	付録-2

# 1章

## 設置手順概要

---

1章では、本装置を設置するうえで必要な情報を説明します。設置を始める前に必ずお読みください。

### 本章の内容

---

- 1.1 設置手順概要
- 1.2 装置構成品
- 1.3 本体各部の名称と機能

## 1.1 設置手順概要

ここでは、本装置を設置する手順の概要を説明します。

おおまかな手順は表1-1のようになります。なお、本書では手順5までを説明しています。手順6以降については、別売りの「NS-2232コミュニケーションサーバ取扱説明書」をご覧ください。また、取扱説明書のPDFを以下のURLの「製品情報」に掲載していますのでご利用ください。

<http://www.sii.co.jp/ns/>

表1-1 設置手順概要

手順	項目	作業内容	参照項
1	梱包品の確認	まず、本装置の構成部品が揃っているかどうかを確認します。	1.2
2	本装置の据え付け	本装置を設置場所に据え付けます。	2.2
3	インタフェースケーブルの接続	インタフェースケーブルを接続します。	3章
4	電源ケーブルの接続	電源ケーブルを接続します。	4.1
5	起動	本装置を立ち上げます。	4.2
6	セットアップ	接続条件の設定や本装置の持つ機能を有効に活用するための項目を設定します。	取扱説明書

## 1.2 装置構成品

本装置の構成品を図1-1に示します。万一、不足品や破損品があった場合は、お買い上げになった販売店または代理店までお申し出ください。

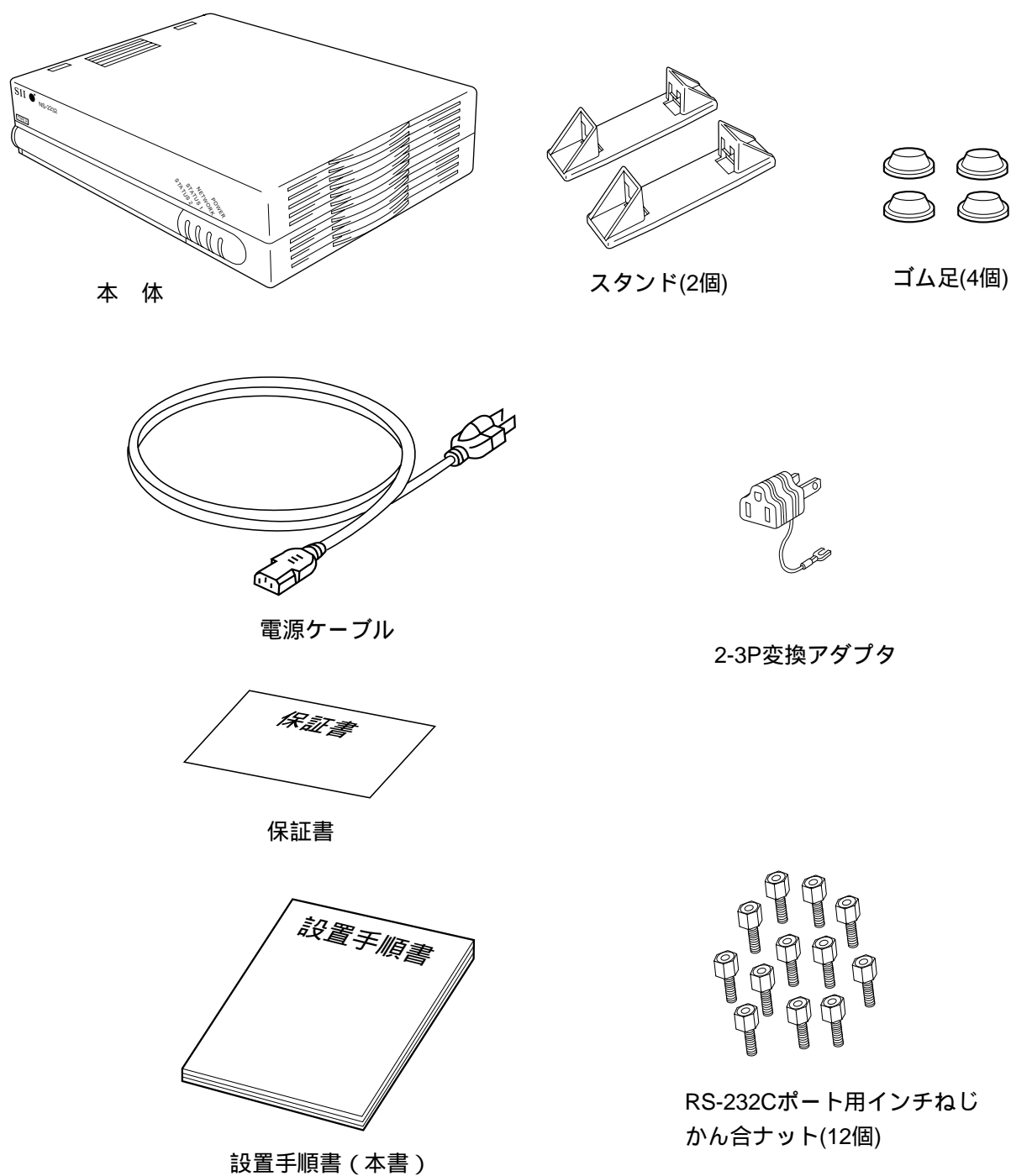


図1-1 装置構成品

### 1.3 本体各部の名称と機能

ここでは、本装置の各部の名称と機能を説明します。

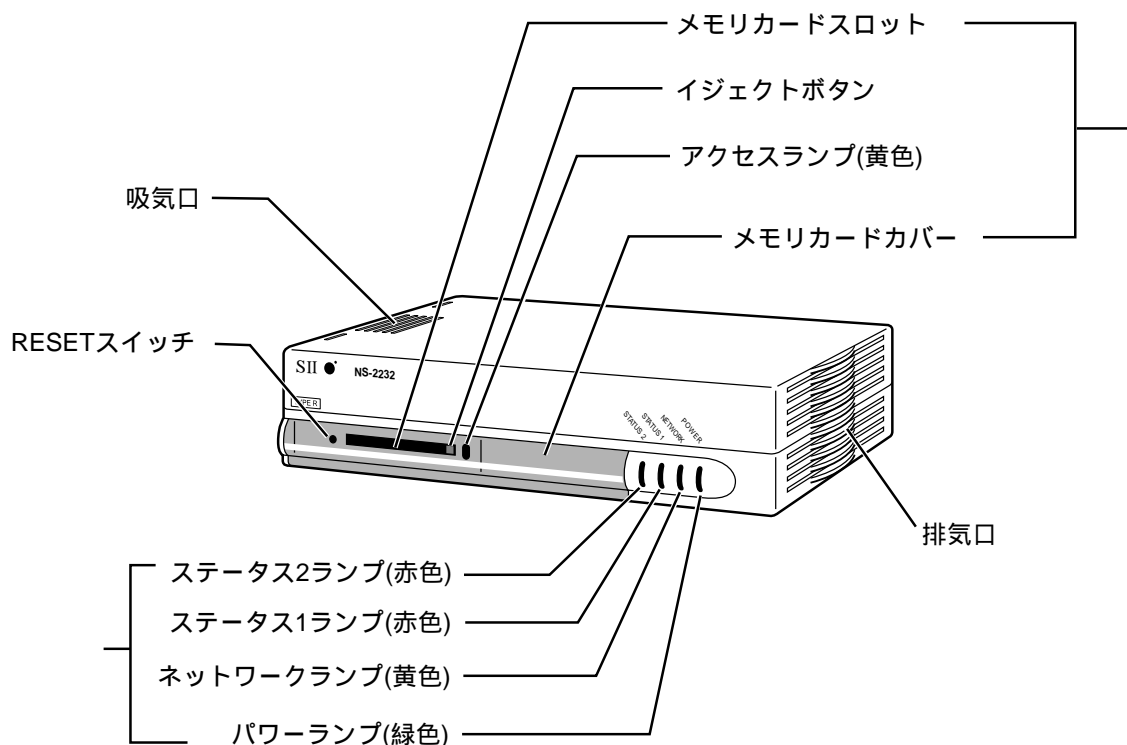


図1-2 本体の各部の名称（前面）

ランプ (POWER / NETWORK / STATUS1 / STATUS2)

ランプ名称	色	機能
POWER	緑	電源がONのときに点灯します。
NETWORK	黄	データを送受信したときに点滅します。
STATUS1	赤	エラーまたは自己診断テスト中のときには赤色に点灯します。
STATUS2	赤	エラーまたはブート中のときには赤色に点灯します。

メモリカードスロット / メモリカードカバー / イジェクトボタン / アクセスランプ  
 PCMCIA R2.1 (JEIDA Ver4) 規格に準拠したメモリカードの挿入用スロットです。コンパクトフラッシュカードをアダプタに装着してこのスロットに挿入します。セットアップC Fカード（オプション）にセットアップを保存したり、ダイアグノスティックスC Fカード（オプション）からダイアグノスティックスプログラムをロードするために使用します。

メモリカードカバー、イジェクトボタンとアクセスランプが付いています。

RESETスイッチ

本装置をリブートするときに押します。

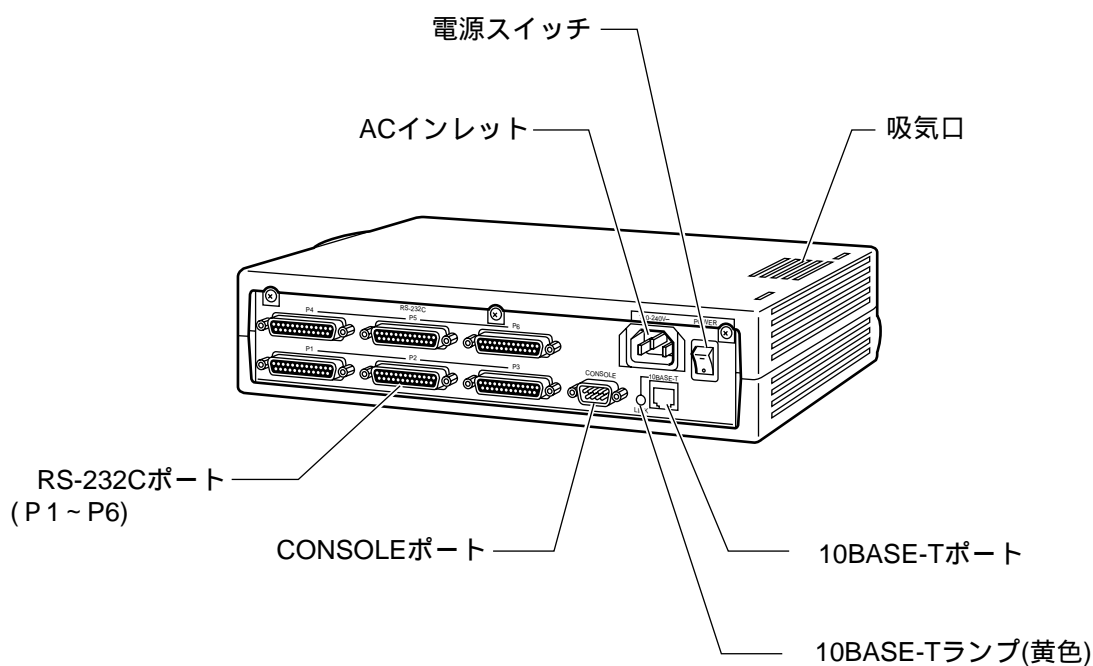


図1-3 本体の各部の名称（背面）

## インタフェースポート

ポート	機能
CONSOLE	コンソールとの接続用ポートです。
RS-232C	RS-232C準拠のポートです。P1からP6のポートが用意されています。
10BASE-T	10BASE-Tケーブル接続用のポートです。Auto-MDI/MDI-X機能に対応しています。

## ランプ (10BASE-T)

ランプ	色	機能
10BASE-T	黄	10BASE-Tリンクテストパルスを検出している間点灯します。

## 電源スイッチ

本装置の電源をON/OFFします。

|と表示されている側を押し込むとON、 と表示されている側を押し込むとOFFになります。

## ACインレット

電源ケーブルを接続します。



# 2章

## 据え付け

---

2章では、本装置を設置する前の確認および本装置を据え付ける手順を説明します。

### 本章の内容

---

- 2.1 設置環境の確認
  - 2.1.1 設置空間
  - 2.1.2 環境条件
  - 2.1.3 電源条件
- 2.2 据え付け

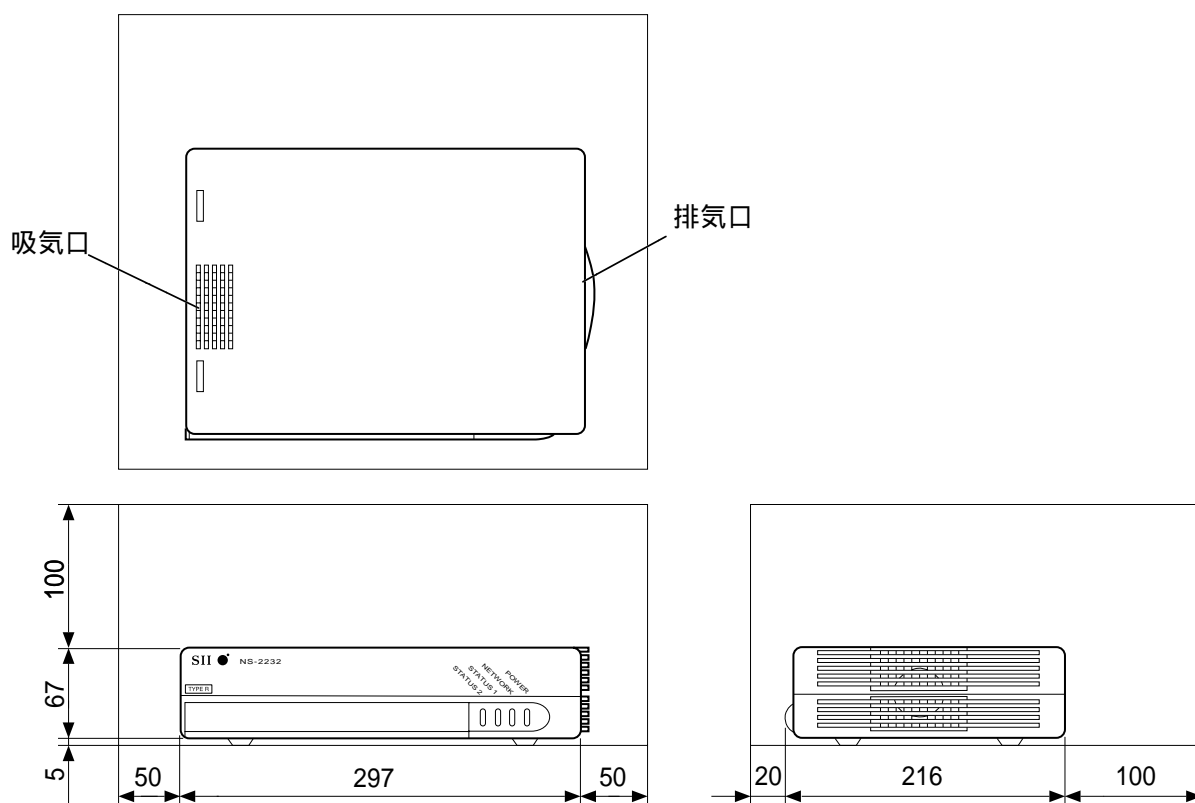
## 2.1 設置環境の確認

本装置の設置環境条件を以下に示します。適切な設置環境を確保してください。

### 2.1.1 設置空間

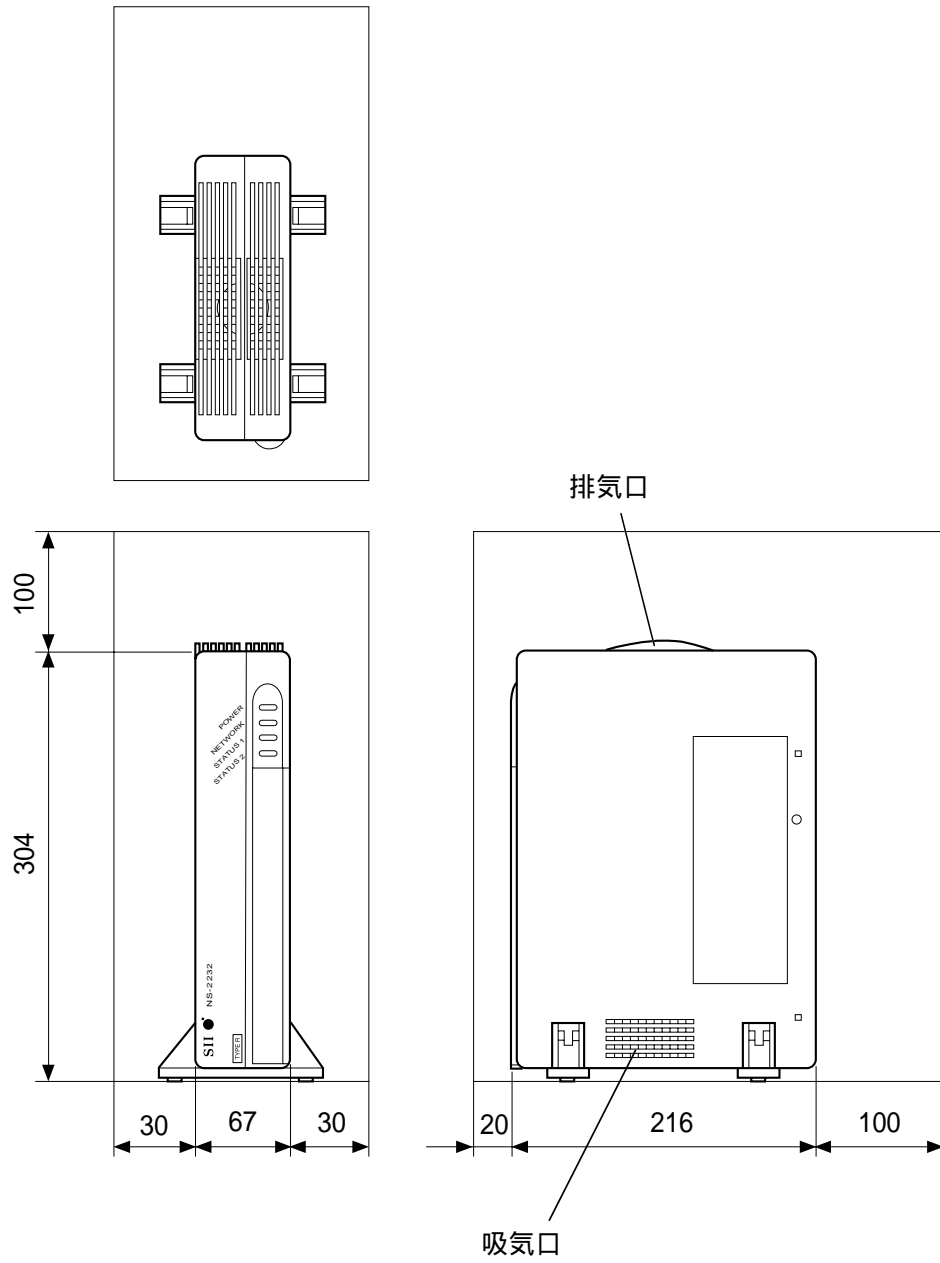
本装置は、横置きまたは縦置きのどちらでも使用できます。それぞれの場合の設置空間を図2-1、図2-2に示します。

注意 吸気口、排気口をふさぐと故障の原因になります。図2-1または図2-2に示す空間を確保してください。



(単位 : mm)

図2-1 設置空間 (横置き時)



(単位 : mm)

図2-2 設置空間 (縦置き時)

---

## 2.1.2 環境条件

本装置は、「付録A 装置の仕様」に示す環境条件下で使用してください。

また、次のような場所には設置しないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・ほこりの多い場所
- ・振動のある場所

## 2.1.3 電源条件

本装置は、「付録A 装置の仕様」に示す電源条件で使用してください。

## 2.2 据え付け

まず、本装置を横置きで使用するか、縦置きで使用するかを決めます。

### (1) 横置きで使用する場合

本装置の底面にゴム足を取り付けます。

図2-3のように本装置の底面にある4箇所の凹部にゴム足を貼り付けてください。ゴム足には粘着剤が付いていますので、裏紙をはがして貼り付けてください。

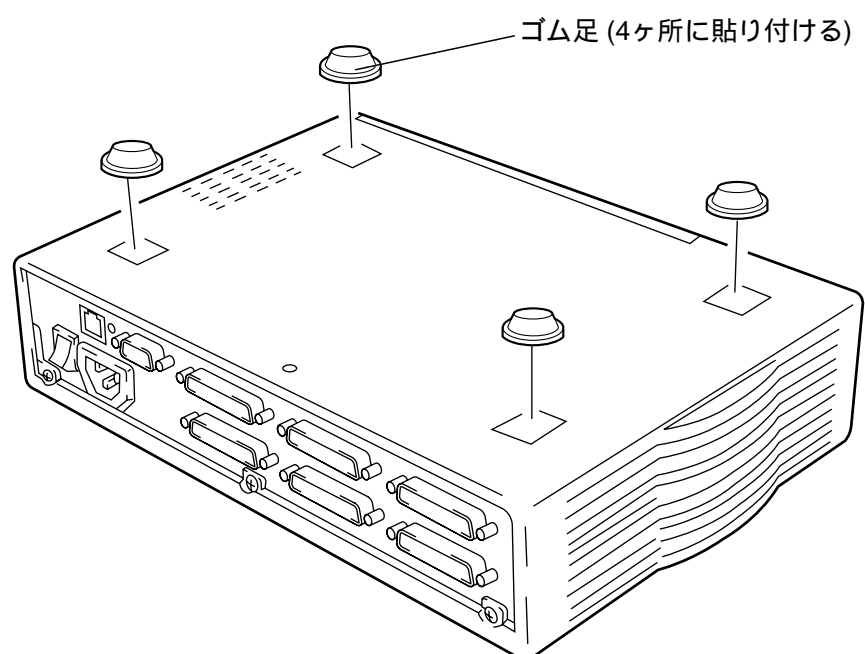


図2-3 ゴム足の取り付け方



注意

不安定な場所に置かないでください。  
火災や感電、事故または故障の原因になります。

(2) 縦置きで使用する場合

本装置にスタンドを取り付けます。

図2-4のように本装置の側面にある4箇所のスタンド固定用溝へスタンドの凸部を確実にはめ込んでください。

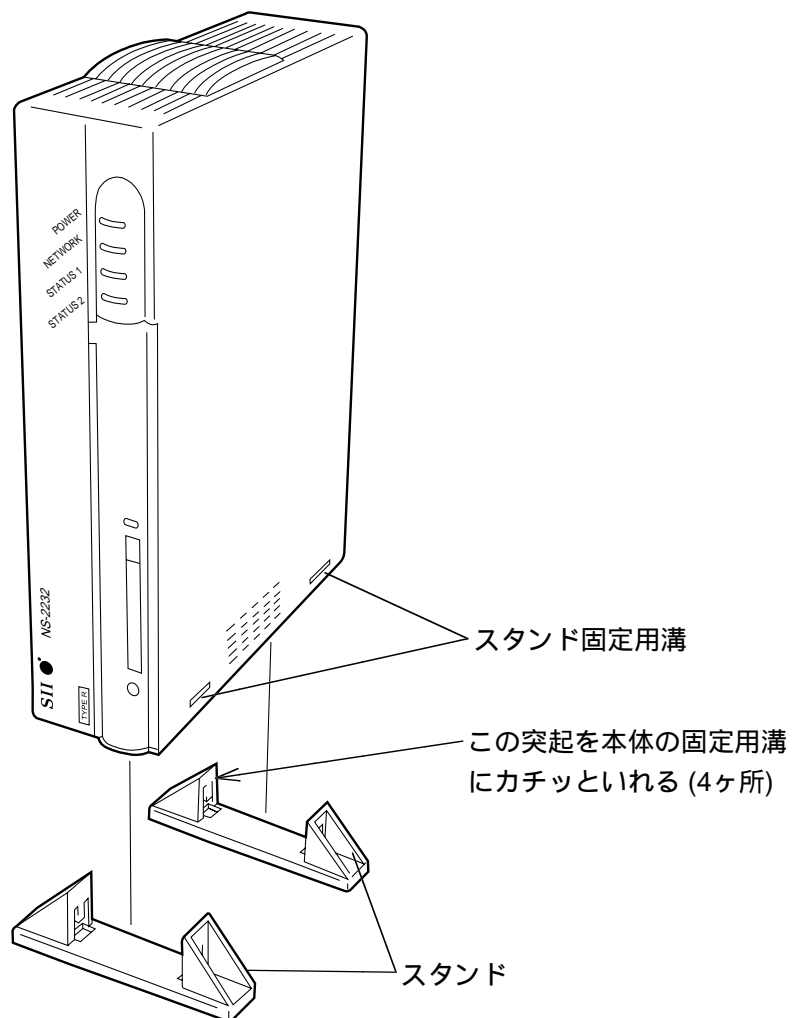


図2-4 スタンドの取り付け方

# 3章

## インタフェースケーブルの接続

---

3章では、インタフェースケーブルを接続する手順について説明します。

### 本章の内容

---

- 3.1 インタフェースケーブルの接続の注意
- 3.2 CONSOLEポートへの接続
  - 3.2.1 DTE仕様の装置との接続
  - 3.2.2 DCE仕様の装置との接続
- 3.3 RS-232Cポートへの接続
  - 3.3.1 DTE仕様の装置との接続
  - 3.3.2 DCE仕様の装置との接続
- 3.4 10BASE-Tポートへの接続

---

### 3.1 インタフェースケーブルの接続の注意

次節以降の説明を参照して、本装置の各ポートの仕様と接続する相手装置の仕様を確認し、使用するインタフェースケーブルを決めてください。

なお、本書では本装置への接続方法のみ説明しています。接続する装置側の接続については、その装置の説明書などを参照して行ってください。

電源ケーブルは、最後に接続します。



注意

ケーブルを接続するときには、すべての機器の電源スイッチを必ずOFFにしてから行ってください。

火災や感電、事故または故障の原因になります。



## 3.2 CONSOLEポートへの接続

CONSOLEポートには、システムコンソールとして使用するターミナルを接続します。本装置の各種設定やステータスの確認はCONSOLEポートに接続されたターミナルを使って行います。

本装置のCONSOLEポートは、出荷時に以下のように設定されています。CONSOLEポートに接続するターミナルを以下の設定に合わせてください。

- ・ ボーレート            9600bps
- ・ ビット長             8bit
- ・ パリティ             none
- ・ ストップビット      1bit
- ・ フロー制御          XON/XOFF

注 意    CONSOLEポートはD-SUB9ピン(オス)コネクタです。ケーブルを固定するねじはインチ規格のものを使用してください。

### 3.2.1 DTE仕様の装置との接続

本装置とDTE仕様の装置は、図3-1のように接続してください。  
ヌルモデムケーブルを本装置のCONSOLEポートに差し込み、固定ねじを締めて固定します。

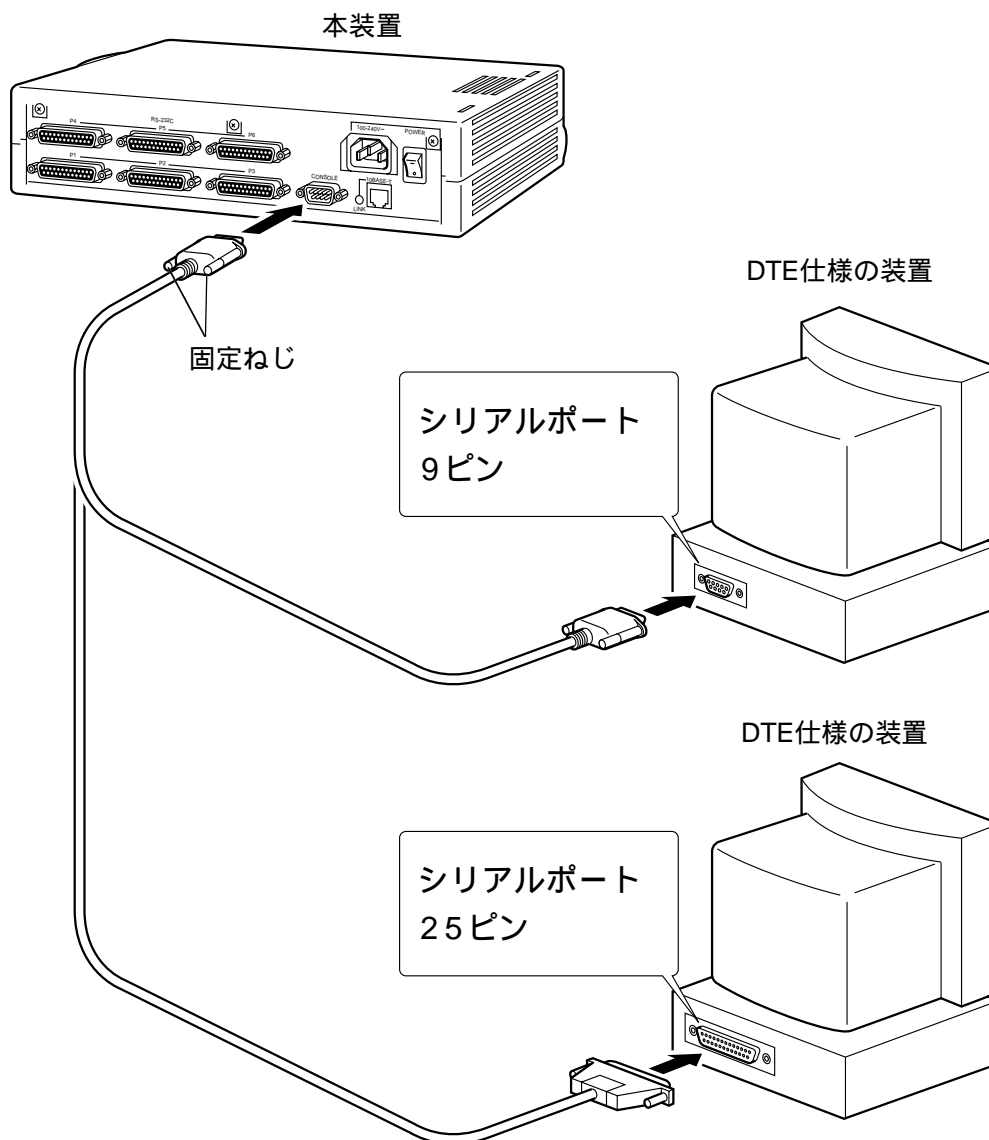


図3-1 CONSOLEポートとDTE仕様の装置との接続

DTE仕様の装置をCONSOLEポートに接続する場合、ケーブルの結線は図3-2、または図3-3のものを使用してください。接続する装置側のコネクタの型(オス、メス)は、接続する装置に合わせてください。

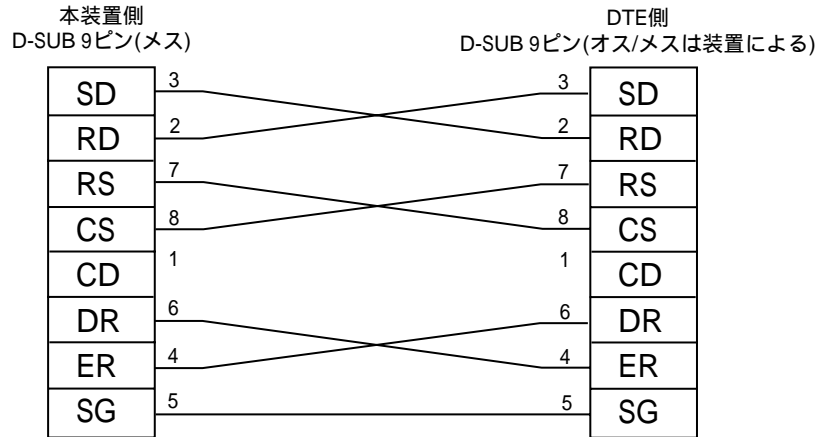


図3-2 9ピン-9ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様1)

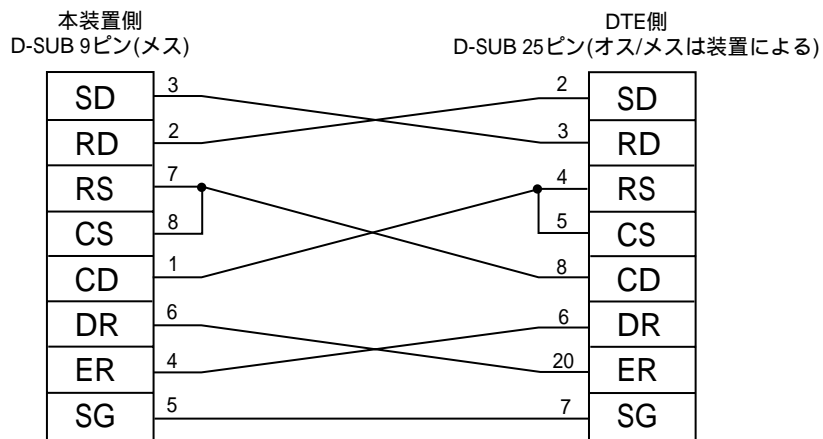


図3-3 9ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様2)

### 3.2.2 DCE仕様の装置との接続

本装置とDCE仕様の装置は、図3-4のように接続してください。  
モデムケーブルを本装置のCONSOLEポートに差し込み、固定ねじを締めて固定します。

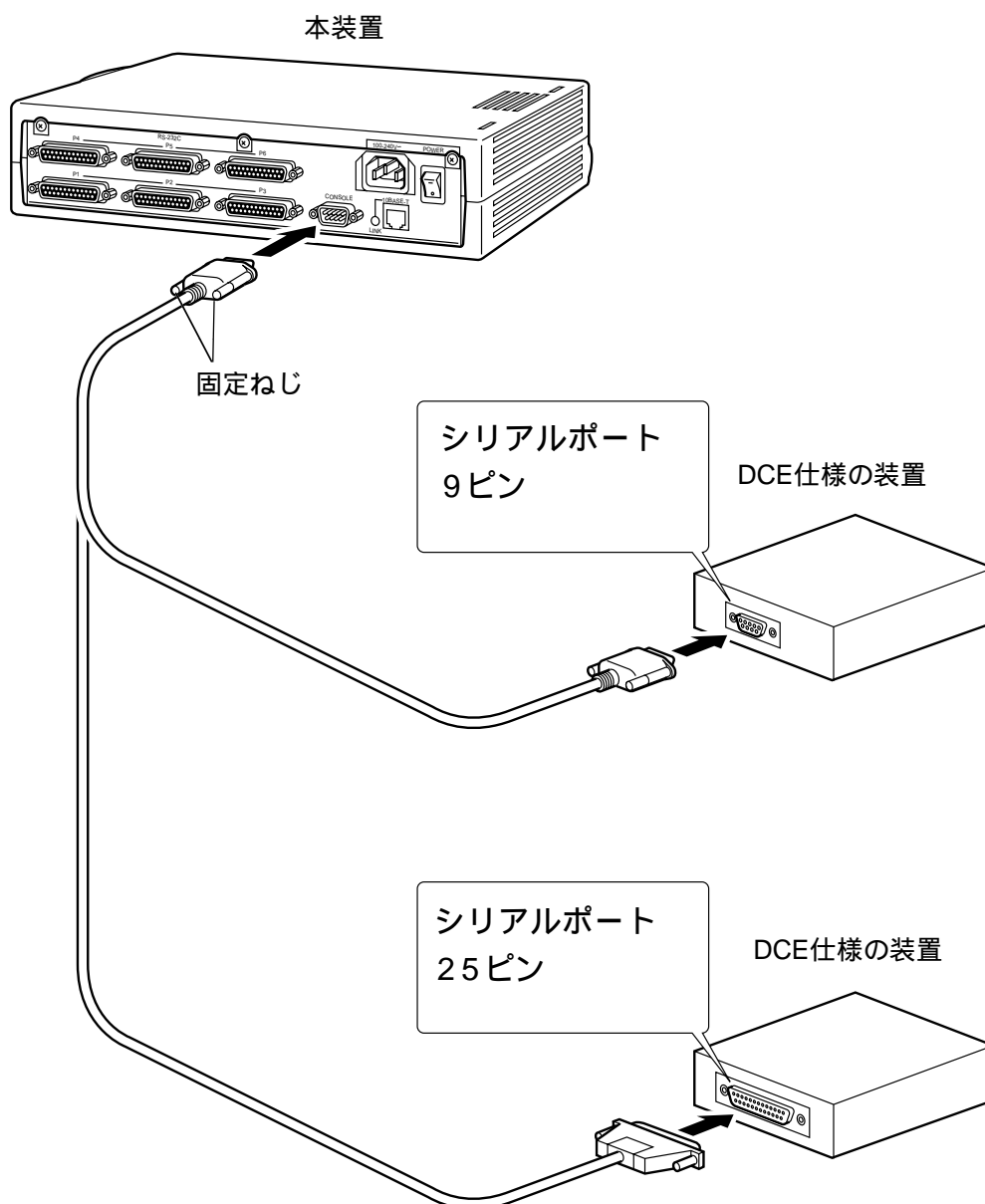


図3-4 CONSOLEポートとDCE仕様の装置との接続

DCE仕様の装置をCONSOLEポートに接続する場合、ケーブルの結線は図3-5、または図3-6のものを使用してください。接続する装置側のコネクタの型(オス、メス)は、接続する装置に合わせてください。

本装置側 D-SUB 9ピン(メス)		DCE側 D-SUB 9ピン(オス/メスは装置による)	
SD	3	3	SD
RD	2	2	RD
RS	7	7	RS
CS	8	8	CS
CD	1	1	CD
DR	6	6	DR
ER	4	4	ER
SG	5	5	SG

図3-5 9ピン-9ピンモデムケーブル結線図(仕様3)

本装置側 D-SUB 9ピン(メス)		DCE側 D-SUB 25ピン(オス/メスは装置による)	
SD	3	2	SD
RD	2	3	RD
RS	7	4	RS
CS	8	5	CS
CD	1	8	CD
DR	6	6	DR
ER	4	20	ER
SG	5	7	SG

図3-6 9ピン-25ピンモデムケーブル結線図(仕様4)

### 3.3 RS-232Cポートへの接続

#### 3.3.1 DTE仕様の装置との接続

本装置とDTE仕様の装置は、図3-7のように接続してください。

ヌルモデムケーブルを本装置のRS-232Cポートに差し込み、固定ねじを締めて固定します。なお、本装置のRS-232Cポートの固定ねじはミリねじになっています。インチねじのケーブルを接続する場合は、付属のインチねじ用かん合ナットに変更してください。かん合ナットの変更はナットドライバを使用してください。

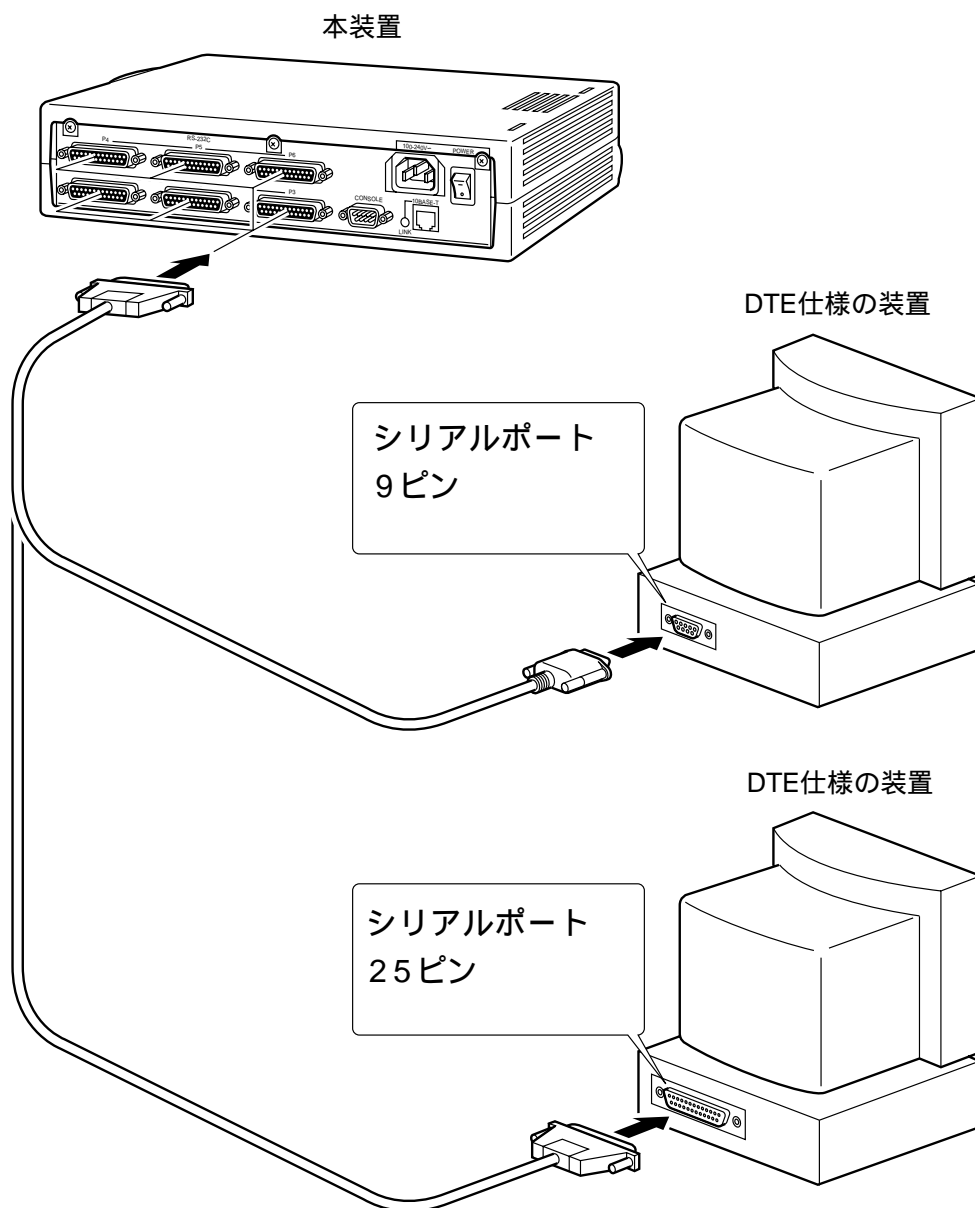


図3-7 RS-232CポートとDTE仕様の装置との接続

接続にはヌルモデムケーブルを使用します。装置のフロー制御方式に合わせて表3-1に示すヌルモデムケーブルを使用してください。接続する装置側のコネクタの型(オス、メス)は、接続する装置に合わせてください。

表3-1 ヌルモデムケーブルの種類

フロー制御の方式	使用可能なヌルモデムケーブル
フロー制御なし	仕様2、5、6、7のいずれかを使用
XON/XOFFのフロー制御	仕様2、5、6、7のいずれかを使用
ER/DRのフロー制御	仕様2、6のいずれかを使用
RS/CSのフロー制御	仕様7を使用

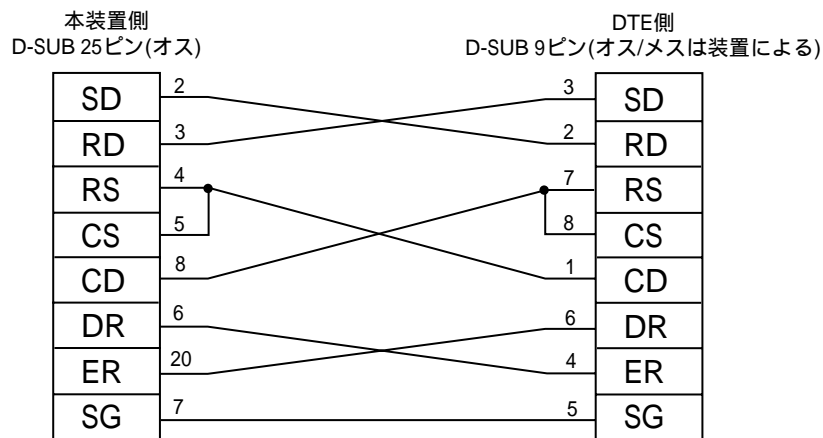


図3-8 25ピン-9ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様2)

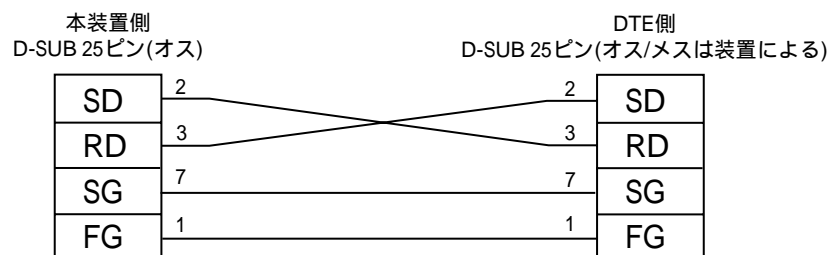


図3-9 25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様5)

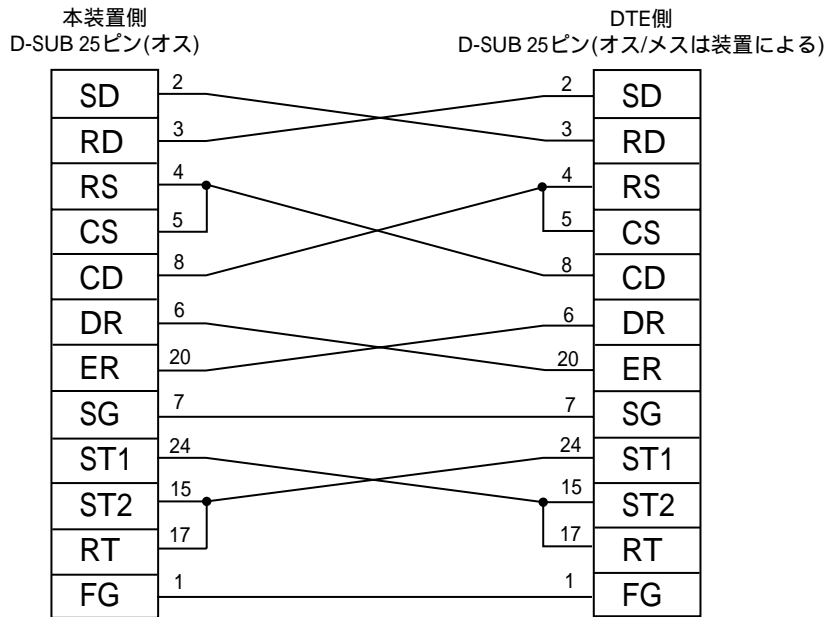


図3-10 25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様6)

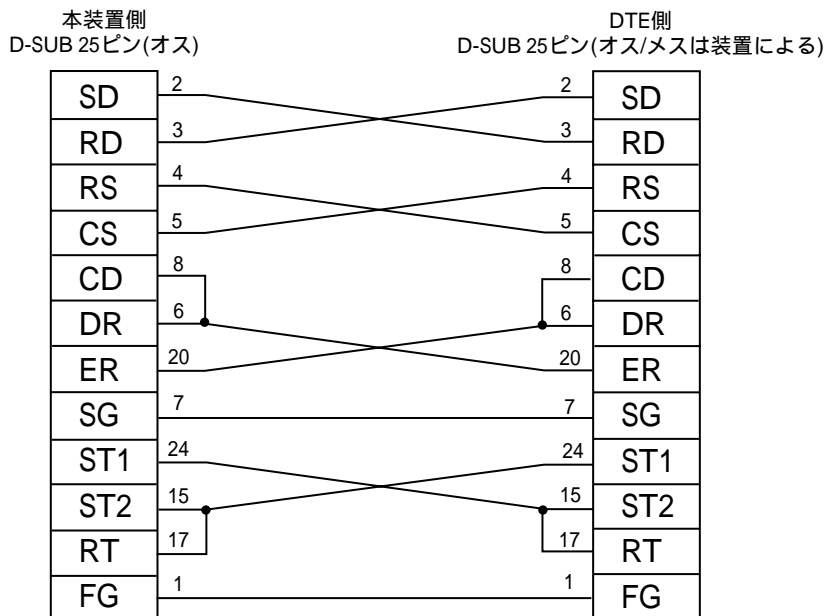


図3-11 25ピン-25ピンヌルモデムケーブル結線図(仕様7)



このページは白紙ページです。

### 3.3.2 DCE仕様の装置との接続

本装置とDCE仕様の装置は、図3-12のように接続してください。  
モデムケーブルを本装置のRS-232Cポートに差し込み、固定ねじを締めて固定します。なお、本装置のRS-232Cポートの固定ねじはミリねじになっています。インチねじのケーブルを接続する場合は、付属のインチねじ用かん合ナットに変更してください。かん合ナットの変更はナットドライバを使用してください。

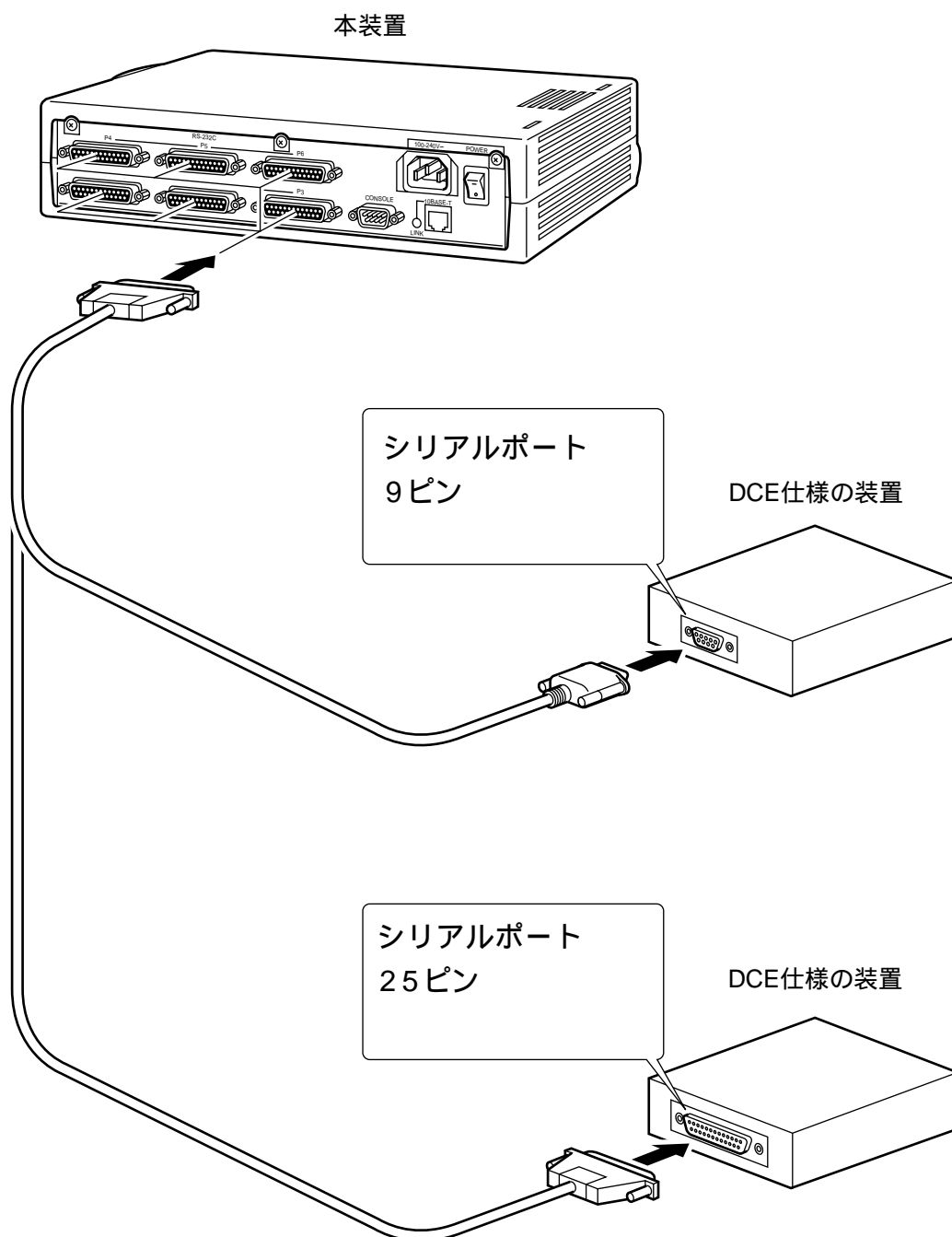


図3-12 RS-232CポートのDCE仕様の装置との接続

接続に使用するケーブルは、接続する装置のシリアルポートの形状に合わせて図3-13、または図3-14の結線のものを使用してください。接続する装置側のコネクタの型(オス、メス)は、接続する装置に合わせてください。

本装置側 D-SUB 25ピン(オス)		DCE側 D-SUB 9ピン(オス/メスは装置による)	
SD	2	3	SD
RD	3	2	RD
RS	4	7	RS
CS	5	8	CS
CD	8	1	CD
DR	6	6	DR
ER	20	4	ER
SG	7	5	SG

図3-13 25ピン-9ピンモデムケーブル結線図(仕様4)

本装置側 D-SUB 25ピン(オス)		DCE側 D-SUB 25ピン(オス/メスは装置による)	
SD	2	2	SD
RD	3	3	RD
RS	4	4	RS
CS	5	5	CS
CD	8	8	CD
DR	6	6	DR
ER	20	20	ER
SG	7	7	SG
ST1	24	24	ST1
ST2	15	15	ST2
RT	17	17	RT
FG	1	1	FG

図3-14 25ピン-25ピンモデムケーブル結線図(仕様8)

### 3.4 10BASE-Tポートへの接続

本装置とHUB(集線装置)は、図3-15のように接続してください。10BASE-Tケーブルのコネクタを本装置の10BASE-Tポートに差し込みます。はずすときは、コネクタレバーを押しながら引き抜いてください。

注 意 10BASE-Tケーブルのコネクタレバーに強い力をかけないでください。レバーが損傷することがあります。

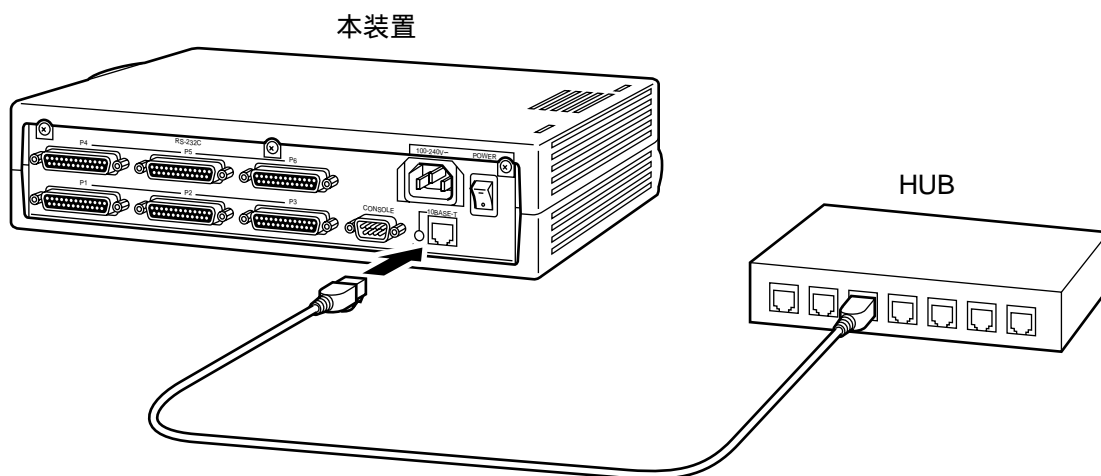


図3-15 10BASE-TポートとHUBとの接続

接続に使用する10BASE-Tケーブルは、IEEE802.3 10BASE-T規格に適合したツイストペアケーブルを使用してください。10BASE-Tポートは、Auto-MDI/MDI-Xに対応していますので、ストレートケーブル、クロスケーブルのどちらでも使用できます。

# 4章

## 起動 / 確認 / 停止

---

4章では、電源ケーブルを接続し、本装置を起動して動作を確認した後、本装置を停止するまでの手順について説明します。

### 本章の内容

---

- 4.1 電源ケーブルの接続
- 4.2 起 動
- 4.3 確 認
- 4.4 停 止

## 4.1 電源ケーブルの接続

本装置に付属の電源ケーブルを接続します。



注意

次のことを必ず守ってください。守らないと、火災や感電、事故および故障の原因になります。

電源には必ずAC100Vの電源をご使用ください。

電源ケーブルは必ず付属の電源ケーブルを使用してください。

電源ケーブルはアースされた電源コンセントに必ず接続してください。

濡れた手で、電源ケーブルを接続したり、外したりしないでください。

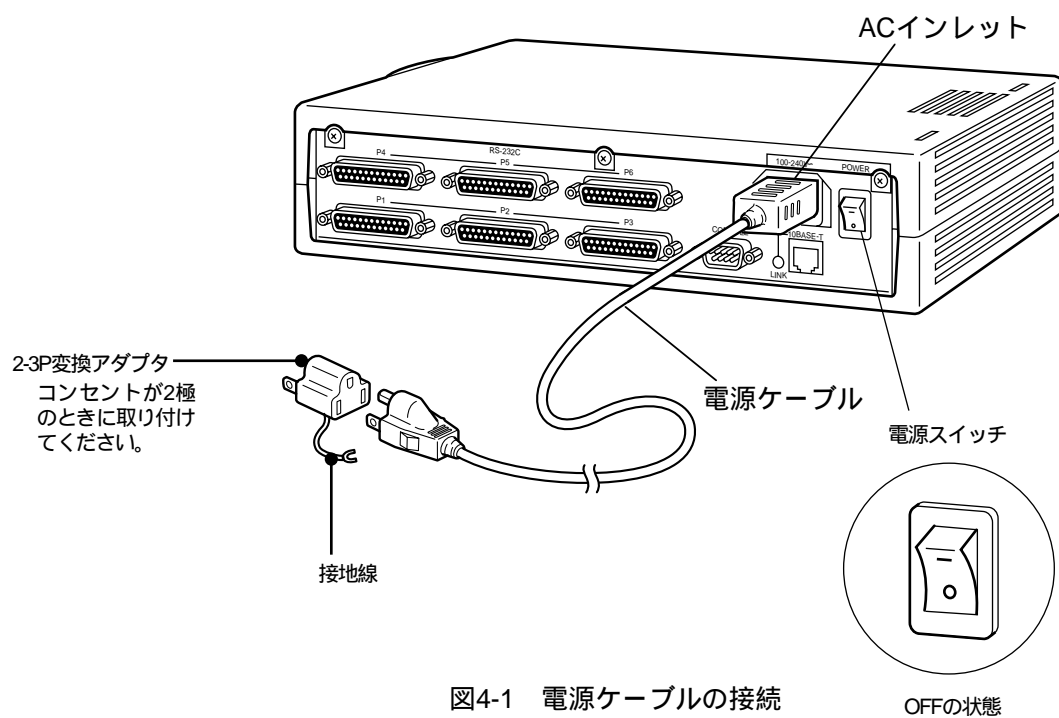


図4-1 電源ケーブルの接続

電源ケーブルを接続する前に必ず、電源スイッチをOFFにしてください。

電源スイッチの 側を押し込んだ状態がOFFです。

付属の電源ケーブルをACインレットに差し込みます。

電源ケーブルのもう一方をAC100Vのコンセントに差し込みます。

2-3P変換アダプタを使用する場合は、2-3P変換アダプタの接地線を必ずアースされた端子に接続してください。

## 4.2 起 動

本装置の電源をONにします。

本装置を接続している他の機器の電源をONした後、本装置の背面にある電源スイッチの、「|」側の方を押し込み電源をONにします。

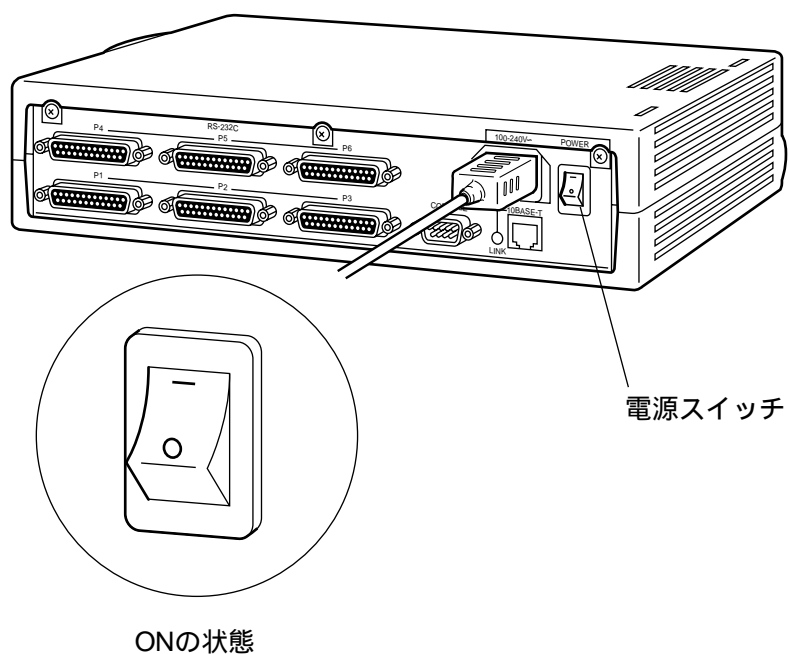


図4-2 電源スイッチON



警告

濡れた手で電源スイッチを操作しないでください。  
感電の原因となります。

## 4.3 確認

正常に立ち上がったかどうかを確認します。

本装置の電源スイッチをONにすると、次のような手順でブートが行われます。ブートが正常に終了すると、STATUS1とSTATUS2のランプが両方とも消灯します。

STATUS2 ランプ	STATUS1 ランプ	本装置の状態
●	●	電源スイッチON直後
○	●	自己診断テスト(POC)実行中(約10秒)
●	○	ブート実行中
○	○	ブート正常終了

● 点灯  
○ 消灯

STATUSランプが赤く点滅または点灯したままのときは本装置に異常があります。この場合は、表4-1に示す症状から対処してください。

表4-1 異常時の対処方法

症 状	対処方法
電源が入らない (POWERランプが点灯しない)	電源スイッチがONの状態になっているか、電源ケーブルが正しく接続されているか、コンセントに電源が供給されているか確認してください。 確認しても問題のない場合には、電源スイッチをOFFにして、電源ケーブルをコンセントから抜いてから、最寄りのサービス拠点に連絡してください。
STATUS1およびSTATUS2ランプが点灯したまま	電源スイッチをOFFにして、最寄りのサービス拠点に連絡してください。
自己診断テストが終了しない (STATUS1ランプ点灯、STATUS2ランプ消灯のまま変化しない)	約1分待ってください。それでも自己診断テストが終了しない場合には、電源スイッチをOFFにして、最寄りのサービス拠点に連絡してください。
STATUS1ランプが点滅している	自己診断テストで異常が検出されました。電源スイッチをOFFにして、最寄りのサービス拠点に連絡してください。
STATUS2ランプが点滅している	ブート中に異常が検出されました。「3.2 CONSOLEポートへの接続」に従ってCONSOLEポートにターミナルを接続して、「 <code>&lt;code&gt;CR&lt;/code&gt;</code> 」 <sup>注(1)</sup> を入力するとプロンプト「MON>」が表示されます。 「 <code>&lt;code&gt;e&lt;/code&gt;</code> 」 <sup>注(1)</sup> を入力してエラーメッセージを確認します。 電源スイッチをOFFにして、最寄りのサービス拠点に連絡してください。

注(1): `<code>CR</code>` は「CR」キャリッジリターンを表す。

以降、別売りの「NS-2232コミュニケーションサーバ取扱説明書」に従って、セットアップを行ってください。



## 4.4 停止

電源をOFFにします。

本体背面にある電源スイッチの、「**○**」側を押し込んで電源をOFFにしてください。

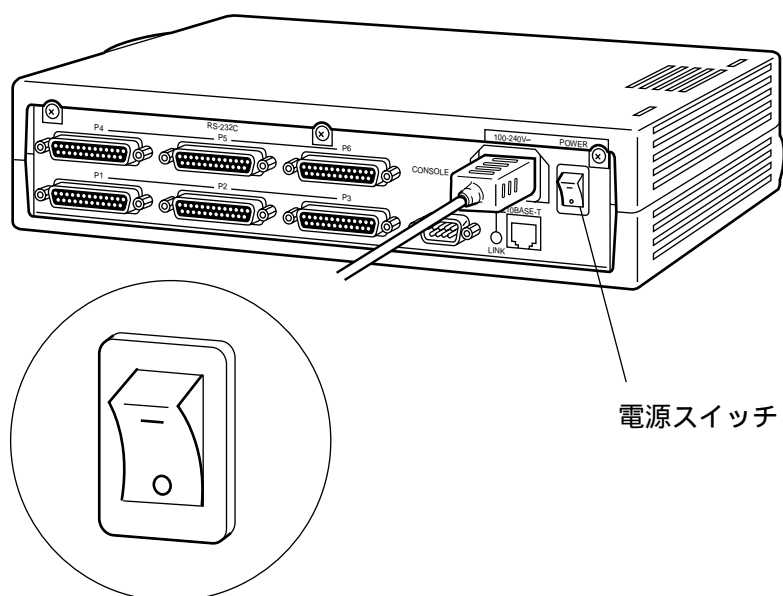


図4-3 電源スイッチOFF

以上で本装置は動作を停止します。

**注意** 電源OFF後、再度電源をONにするときは、10秒以上経過してから電源スイッチをONにしてください。あまり早く再度電源をONにすると、正常に本装置がリセットされず、本装置が正常に動作しない場合があります。

# 5章

## 保 守

---

5章では、日常の保守の方法について説明します。

### 本章の内容

---

- 5.1 日常の保守
  - 5.1.1 吸気口の清掃
  - 5.1.2 本体の外装の清掃

---

## 5.1 日常の保守

### 5.1.1 吸気口の清掃

吸気口がほこりなどでつまると、故障の原因となります。  
約2ヶ月に1回、定期的に掃除機などで吸気口を清掃してください。

### 5.1.2 本体の外装の清掃

本体の外装が汚れたときは、次の手順で清掃してください。

水または水でうすめた中性洗剤を柔らかい布に含ませて、よくしぼってから拭いて汚れを落としてください。  
汚れが落ちたら、乾いた布で乾拭きしてください。

注 意 シンナー、ベンジン、アルコールなどの揮発性溶剤は絶対に使用しないでください。  
また、水や洗剤などの液体が本体内部に入らないように行ってください。

# 付 録

---

ここでは、本装置の本体とインタフェースの仕様を示します。

## 付録の内容

---

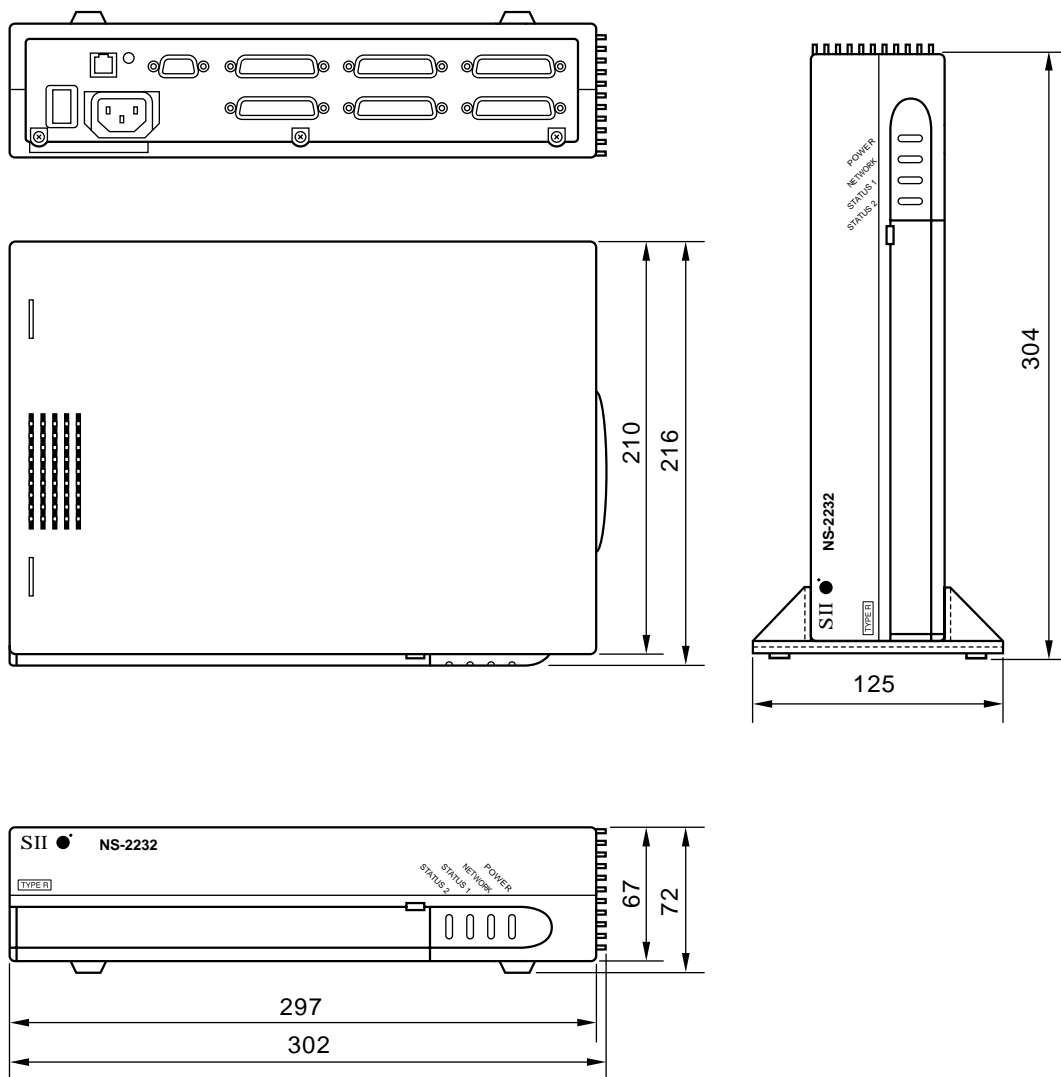
- A 装置の仕様
- B インタフェース仕様

## A 装置の仕様

本装置の仕様を以下に示します。

表A-1 本装置の仕様

項目	仕様
外形寸法	297mm × 210mm × 67mm (図A-1参照)
質量	約2kg
電源電圧	AC100V
電源周波数	50 / 60Hz
消費電流	最大0.25A
EMI規制	VCCI クラスA
環境条件	動作時 5~45℃、15~85%RH (結露なきこと) 保存時 -10~60℃、90%RH以下 (結露なきこと)
環境対応	欧州 RoHS指令(特定有害物質使用制限指令)に対応
メモ리카ード スロット	PCMCIA R2.1(JEIDA Ver4)準拠
CONSOLEポート	調歩同期シリアル
RS-232Cポート	RS-232C調歩同期シリアル
10BASE-Tポート	IEEE802.3 10BASE-T Auto-MDI/MDI-X対応



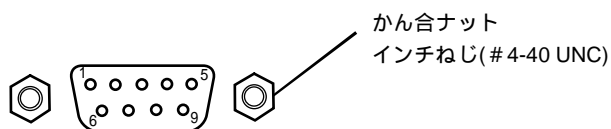
(単位:mm)

図A-1 本体の外形寸法

## B インタフェース仕様

### (1) CONSOLEポート仕様

CONSOLEポートの仕様を以下に示します。



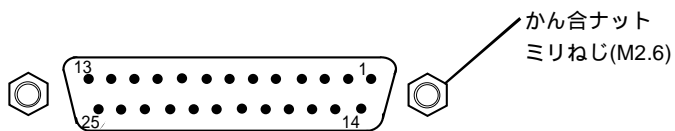
D-SUB 9ピンコネクタ (オス)

< CONSOLEポートの信号表 >

ピン番号	信号の名称	信号の方向	信号の意味
5	SG	—	信号用接地
3	SD	出力	送信データ
2	RD	入力	受信データ
7	RS	出力	送信要求
8	CS	入力	送信可
6	DR	入力	データセットレディ
4	ER	出力	データ端末レディ
1	CD	入力	キャリア検出
9	—	—	未接続

## (2) RS-232Cポート仕様

RS-232CポートはRS-232C準拠のポートです。  
RS-232Cポートの仕様を以下に示します。



D-SUB 25ピンコネクタ (メス)

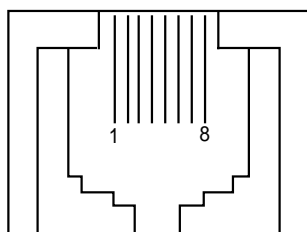
## &lt; RS-232Cポートの信号表 &gt;

ピン番号	信号の名称	信号の方向	信号の意味
1	FG	—	保安用接地
7	SG	—	信号用接地
2	SD	出力	送信データ
3	RD	入力	受信データ
4	RS	出力	送信要求
5	CS	入力	送信可
6	DR	入力	データセットレディ
20	ER	出力	データ端末レディ
8	CD	入力	キャリア検出
24	ST1	出力	送信タイミング1
15	ST2	入力	送信タイミング2
17	RT	入力	受信タイミング



### (3) 10BASE-Tポート仕様

10BASE-TポートはAuto-MDI/MDI-Xに対応していますので、接続先の装置の仕様により、下記の2通りのどちらかに自動で切り替わります。



8ピンモジュラジャックコネクタ (RJ-45)

< 10BASE-Tポートの信号表 >

仕様1 (MDI)

ピン番号	信号の名称	信号の方向	信号の意味
1	TD +	出力	送信 +
2	TD -	出力	送信 -
3	RD +	入力	受信 +
4	—	—	(未使用)
5	—	—	(未使用)
6	RD -	入力	受信 -
7	—	—	(未使用)
8	—	—	(未使用)

仕様2 (MDI-X)

ピン番号	信号の名称	信号の方向	信号の意味
1	RD +	入力	受信 +
2	RD -	入力	受信 -
3	TD +	出力	送信 +
4	—	—	(未使用)
5	—	—	(未使用)
6	TD -	出力	送信 -
7	—	—	(未使用)
8	—	—	(未使用)

